京城新報

●新聞料 一ヶ月金壱圓 三ヶ月金拾壱錢 六ヶ月金拾壱錢 一ヶ月金壱圓 三ヶ月金拾壱錢 六ヶ月金拾壱錢 ●廣告料 一行一回金三十錢 一行一回金四十錢 ●廣告料 一行十五字詰 ●廣告料 一行十五字詰

●陸軍 五月卅一日

發行編輯兼印刷人 秋山忠三郎
發行所 京城清報社
電話六三四番

冥途より通信（下の上）

亡者 伊藤老公閣下 享より 星 翠山生

▲亡者の分際として斯く憎まれ口を叩き候ことの嘸かし神經過敏なる閣下に取りては、小癪な奴、生意氣な僞と御立腹の節もあらんも、迚も前に申し遣し通り呉々も閣下の公生涯を思ふの更情に外ならず候へば、此の點は幾重にも不悪御賢察有之度願上候、而して小生は浮ながらもう二口三口申し上ぐる積りに候、昨冬御研學の爲め日本に御出發被遊候以來身心共に御健全に被渡、ソレに準ぜんと言ひ曾能と言ひ日を經るに從つてメキ〳〵と御發達の由舞聞いたし居り候が、思ひきることに目出度次第にて御父君及びお母はるかの御慢びは嘸かしと被察候、思ふに是れ由來國下が御聰明と學に渡らせるるしは申すも愚かなれども又閣下が太子太師としての御輔育其の寵也を得居るもとし奉恐察候、實際子弟の教育に就て其現在我が子の教育に少なからぬ困難と手數とを要する筈のものなるに況して他人の……否な丸軍學深き玉の宮居に起き居し給ふ皇儲殿下の御輔育を帶びらるゝ閣下の責任は實以て容易ならざる義と只管察し入り候。

▲然るに愛に小生の怪謬に禁へざるは此の絶大なる責任と少なからざる心勞とを有せる筈の閣下が常に殿下の御身邊に侍り玉はず、のみならず遠く去つて任に韓國にあることは果して如何なる御所存かと被存候、尤も此の世とは遥ひ文明の機關の發達せし姿樂のことに候へば例令其の身は千萬里の海山を隔れ居り候とも別に差したる不便は無之やうには候へども、弁は他の場合にて是れとソレとは固より日を同うして論ずべきにはあらず候。

▲さはいへ閣下の任務は世の所謂一般への庭に於ける生徒と教育と關係に於けるが如く、閣下自ら教壇に立ち導く殿下に對し奉りて修身の道を教へ、讀書の智を授くる一個の先生樣にあらざるは固よりこと、ソレ等に關しては他に立派なる學問を適當なる俸講の存することに候故此の點に於ては毫も閣下を煩はすの要は無之候もソレ以上の重大なる任務と職責とに至りては如何にしても之を閣下に歸せざるべからざる以て論を俟たざる所に候然るに閣下は統學者としての多端なる官職を帶び遠く殿下の御身邊に辭して韓國に赴き給ふ思ふに

三面六臂を有するものにあらざるよりは如何でか能く之が輔導の大任を全うすることの容易に能ふべく候哉、

▲今更ら申新らしく申す迄もなく閣下が一意唯現世の榮耀榮華をのみ是れ欲し、天爵よりも人爵を尊び、實名よりも虛名を求むるに切なるは昔ねく世人の知るところ、又閣下自身と雖も先刻御存知の筈と存候、而して端なくも昨冬閣下には英親王殿下御輔導の名の下に、辱くも韓皇室より太師太子の尊名を授けられ、同時に皇族の待遇を給はられ候ひしは眞個無上の光榮、恐らくは釋迦樣と雖もヨモヤ御存知有之間敷と被察候、サテ此の無上の光榮を辱うせし閣下は當時果して如何の感慨をか懷され候哉、思ふに是れ一個虛榮心の權化たる閣下の心中は嘸ぞかし感極づて感し涙に堪へ難きことし被察候、而も又翻へつて同時に閣下が其の身の負荷の極めて重且つ大にして宛かも九鼎大呂のソレの如くなりしことは慄然として不思議の感動を發じ得ざりしと雖ども失禮ながら想像いたされ候而かも閣下は名を取りて實を後にす、タトヘ精力絕倫、意氣旺盛なる閣下と雖も何にさま古稀に乘んとする身亡者小生の愛慮する又强ちに杞人憂にはあらず候。

高等女學校現況（續）

此の他本校の主義として質素の旨とし浮華の服裝飾を戒め一方容儀を正しなる事を戒め一方容儀を正し作法を守り自然の美を自然に發揮せしむる方針とせり入學試驗の際の如きは服裝の華美頭飾の贅澤驚く計りにて甚しきは厚化粧をなし黃金の指輪を貫めるる者すらありし由なるも開校後勞頭第一に三を戒め深く此の點に注意したる由にて今や生徒一般の氣風は本校の主義に一致せるものある如し又各生徒をして必ず自己の日記を認めしめ其行爲の巨細を記入して一日を如何に暮せしかを反省せしむる方法を取り居れり此の日記は校長及び擔任教師綿密なる檢閱を行ひ以て個人的訓練の材料となし兼て又生徒に自己の見聞せる事實及び感想を有りのまゝに記述せしむるに馴れしむる爲めなりと云ふ學科教授法の方針は言ふ迄なく一個の先生樣にあらざるは固よりこと、ソレ等に關しては他に立派なる學問を適當なる俸講の存することに候故此の點に於ては毫も閣下を煩はすの要は無之候もソレ以上の重大なる任務と職責とに至りては如何にしても之を閣下に歸せざるべからざる以て論を俟たざる所に候然るに閣下は統學者としての多端なる官職を帶び遠く殿下の御身邊に辭して韓國に赴き給ふ思ふに

第一學年 二三 第二學年 三一
第四學年 二四

甜菜の試作及拆分成蹟（續）

更に試作を繼續して平年に於ける成蹟を觀察すると同時に數年間の平均成蹟をも考察するを要し且又施肥法に關しヲグチル氏の所謂中位の量を（一反歩に付窒素四基燐酸六基）及最多量（一反歩に付窒素六五基燐酸六基）の標準に就て更に試作を重ねて經濟上の利害得失を研究するを要す

蘭島及黃州に試作したる結果は單に分析の材料に供せり元山は中途試作を廢するに至たる爲に成蹟報告を欠くは遺憾とす

糖分檢定成蹟

糖分抽定用の供試品は圃場の兩對角線中より適宜採掘し五個乃至十個の甜菜を一回分拆に充て糖分はポラリスコープ法及び純糖率は所謂ヴォルフ、ハイトにして酸汁の比重を測定しブリックス氏の表に依りて計算したるものなり

採集區別 根の平均重量 糖分 酸度

月日	區別	平均重量	糖分	酸度
九月廿一日	無肥區	二九〇〇	九〇〇	九〇〇
同	施肥區	二六〇〇	九〇〇	九〇〇
九月廿二日	施肥區	三四〇〇	九〇〇	九〇〇
同	施肥區	三〇〇〇	九〇〇	九〇〇
十月二日	無肥區	二九〇〇	九〇〇	九〇〇
十月四日	施肥區	三一〇〇	九〇〇	九〇〇
十月十一日	無肥區	五四〇〇	九〇〇	九〇〇
	施肥區	五六〇〇	九〇〇	九〇〇

浮世ぐさ

日の丸國旗の起り

日の丸を始めて國旗として用ひしは、薩摩藩より昌平丸といふ長さ二十四間の大船を幕府に献上する時、此の旗を押し立てゝ品川沖迄乘り行きし時にて安政二年二月二十五日なり、即ち今日の國旗の日の丸はこれより轉用せしものなり、扨て其の由て來る所を聞くに曰はれより先き、嘉永七年七月病日、島津齊彬公右の昌平丸献上のことにつき閣老阿部伊勢守と、彬中に於て面談し、彼の献上船回航のことも近づきけるが風波の都合にて何國に繫はんも知りがたし、御國船總印しありて然るべしといひけるに、閣老は只今國旗多端にて國旗の調べ所にあらず、貴邊御見込あらば來はらんといひしに、齊彬公申すやう、恐れ多きことながら大体の見込はつきて既に水戸見張宇和島公其の他の外樣にも內談して同意を得しが、智仁勇を總括して日の本の國とも日父紀後の日出の國とも呼ぶべきなれば、國名にも相當なれば日の丸こそふさはしけれと、兼て見込をつけ居りしと答へしに閣老も至極成程なりとて、其日の丸旗の雛形一ヶ年の星霜を經て大財となつたる今日まで、唯の一時でも亡父の遺書を忘れたことはなかつた。

しかるに義祐が待焦れた、亡父の遺志を果すべき時機は來つて、今や日露の風雲は益々怪しく、在野の志士論客は口を極めて暴露の征討を主張し、在朝の功臣も又一面穩露の征討を主張し、在朝の功臣も又一面穩かに交渉すると共に、一面に着々戰鬪の準備を整へ、卒と言は百萬の雜兵一令の下に活動するの形勢となつて、少壯血氣の軍人は腕を鳴らし劍を撫で、一時も早く宣戰の大詔の下るを待ちつゝあつた。況して西脇の心中の愉快は甚だものであらう、血は沸返り肉はブル〳〵躍つて、一日千秋の感がするのである。

かくまで亡父の遺志を果さん事に心血を注ぎつゝある義祐は、敵國と附狙る露國陸軍大臣黑鳥公の遺書を見た義祐は、悲みのあまり一時人目を憚り、遠く須磨の濱邊に密會して、只管父の怨靈を慰めん事のみ心國防の圖面を賣り法したは何故であらう、一萬や二萬の金子が欲しくて、穢多非人も憚るべき卑劣の行動を敢てであらう、あらず西脇が家は財產家と言ふ程にあらず、あらず、敵萬の財產は確に有る。況しあらずとも、敵萬の財產は確に有る。況しかは、彼男を誘惑して其の情に富み、上に阿らずを滿み、寔に好の青年士官であつた、さればこそ陸軍部に彼男を誘惑して三條上官に近づき、智仁勇を總括して日の本の國とも日父紀後の日出の國とも呼ぶべきなれば、國名にも相當なれば日の丸こそふさはしけれと、兼て見

新不如歸（二十四）

樣原嶺葉著

遺書を見た義祐は、悲みのあまり一時人目を憚り、遠く須磨の濱邊に密會して、只管父の怨靈を慰めん事のみ心國防の圖面を賣り法したは何故であらう、一萬や二萬の金子が欲しくて、穢多非人も憚るべき卑劣の行動を敢てであらう、あらず西脇が家は財產家と言ふ程にあらず、あらず、敵萬の財產は確に有る。況しあらずとも、敵萬の財產は確に有る。況しかは、彼男を誘惑して其の情に富み、上に阿らずを滿み、寔に好の青年士官であつた、さればこそ陸軍部に彼男を誘惑して三條上官に近づき、智仁勇を總括して日の本の國とも日父紀後の日出の國とも呼ぶべきなれば、國名にも相當なれば日の丸こそふさはしけれと、兼て見

●龜屋支店開業御披露●

今般左記之處に支店を設け從來の營業振に一層の改良を加へ專ら洋酒食料品食器具類販賣仕品質之精良は勿論價格之低廉を旨とし本日より開業仕候間何卒本店同樣倍舊の御引立を以て不拘多少御用仰付被下度伏て奉希候頓首

京城本町三丁目 龜屋商店 電話二一七番
京城本町一丁目 龜屋支店 電話八二七番

西洋雜貨各種
西洋酒食料品
洋菓子鑛泉水
洋食用器具類
葉卷紙卷煙草
陶磁器硝子器

追て聊開店の祝意を表する爲め特に本社より取寄申候生ビール開店三日間に限り各位の御玩味に供度候間何卒賑々敷御入來の程奉懇願候

辯護士開業

小生神戸大阪各裁判所判事關東都督判官を歷任し以て韓國政府の囑托を受け漢城裁判所事務補佐の任に當居候處今般辭任の上當地に於て辯護士業務に從事し左記諸件法律事務熱誠懇切に取扱申候

一民事、刑事、訴訟代理、辯護、鑑定輔佐
一諸官廳に對する訴願
一定款及契約書起案
一民商事に基く計算事務

大阪地方裁判所所員
明治四十一年五月
辯護士 正七位 岡田榮
事務所 京城旭町一丁目十八番戶民團役所樓上
出張事務所 京城本町廣前

謹告

エジプト賣及マニラ葉卷其他煙草類各種
西洋雜貨洋酒洋菓子並に支那糖菓及紅茶
六神丸特約販賣 但有名なる上海製造のもの御座候
護告在韓滿國人

大邱 頭彩 金壹萬圓 第三十一次（除曆四月十日陽曆五月十日）
安徽 頭彩 金五萬圓 第十八次（除曆四月二十日陽曆五月廿日）
湖北 頭彩 金壹萬圓 第十七次（陰曆四月廿八日陽曆五月廿七日）
江南 頭彩 金壹萬圓 第十七次（陰曆四月廿七日陽曆五月廿六日）開彩

定價 湖北彩票全紙金七圓五拾錢 小切八拾錢
江南彩票全紙金七圓 小切七拾五錢
大邱彩票全紙金壹圓參拾錢 西洋雜貨
安徽彩票全紙金壹圓參拾錢

商源號
京城永樂町水標橋二宮街

廣告

來韓諸君の便宜を圖り新に事務所を銅峴に開設し事件の大小難易を問はず直接其囑托に應じ懇切に法律事務を取扱ふ

辯護士 高橋章之助
明法學士
前代議士
事務所 銅峴二十二統九戶（明治町突當）
電話二五六
本宅 京城本町五丁目（長距離）
電話二二四

梅毒にて苦む御方は急ぎ一劑試み給へ
速に全治す藥効なき時は返金ず

百人一百治す 湯血丸 價一圓

右藥は米國醫科大學教授博士（マンキリン氏）の明治二十五年十月新發明せられし良劑にして螺旋狀の毒病は二週間切れば速に全治す此藥は我日本にありふれたる海藻藥とは異なり服用して決して口中いためず飲食物に禁止なし就業勤務に妨害なし身体衰弱せず頭髮ぬけず養生中他人は勿論家內のものにも知れざる秘話なく全治する事保證す但一週間分金一圓

韓國一手販賣 調劑本店 京城新町 松本快活堂 松本儀祐

●取消　昨三十日發刊本紙第百五十六號社說李完用君に與ふの書中事實相違の點を發見せしに付右相違の點を取消す

東城新報

地方弊政の除却

邦人觀察使の必要

韓國統治の實績を擧るに於て、極要なる問題は地方行政の弊害を除去するにあり、故に今茲は統監に地方の視察を勸告したりき韓國地方の弊政は殆ど言語に絶するの狀態にて、寧ろ無政府の優れることを感せずんばあらず、觀察廳郡衙ありと雖も唯夫れ租稅の消費所に過ぎざるなり、所謂治國平天下の要道なるものは地方牧民官の解せざる所なり、官衙は地方人民を苦しむるの府に過ぎざるの觀あり、弊政深く浸潤せり、之を矯革する蓋し容易の業にあらざるなり、觀察使を中央に會同して、一場の訓諭を以てするが如きは、進歩せる邦國の爲す所にして、韓國の現狀に於ては何等の益なく殆ど徒勞たるなり、然らば如何にして地方弊政を除去すべきか、要するに治績の擧るを擧らざるは地方官の人物にあり、現在の觀察使を以て其實蹟を擧げむとするは、木に緣りて魚を需むるの類に非ざる乎、人或は言はむ之が爲に各道に日本人書記官を配置して補佐に過ぎず建策を用ゆると用ひざるは上官の任意なり、所謂伊藤公の捨名取實は事實に於て破れたり、今更地方に迄繰返すの愚を學ぶべからず、宜しく邦人の適材を擧て觀察使となすべし、現任の觀察使を訓諭懲戒して任務を遂行せしむるは、日暮れて道遠しの感あるのみならず、到底徒勞たるに終るべし、惟ふに地方の弊政を除却せむには其吏員を戒飾して、先づ第一に苞苴賄收を斷絶せしめ、民をして安然業を勵ましむるにあり、要は唯是のみ、此簡單なる問題が韓國に於ては容易に行はれず從來牧民の職に就くの目的が人民を誅求して財を蓄るに於て、韓國統治の意義を明にすることを得べし、之れ統監政治の急務にあらずや。

漢城便り

▲余輩は近時伊藤公の贅容を拜する毎に只氣の毒に感じ蒸涙を禁ずる能はざる者に有之候贅ては其能の神に縋がりて英雄的狂言を試みられたる事も有之候得共如何にせん海外政治は實力を主と致候を以て實力皆無若し夫れ觀察使全部を擧げて、日本人を任命することの、當局に困難なる事情あらばせめて二三の觀察使にても可なり、模範的地方行政の任に當らしむべし、當局者の最も注意すべきは人物の撰擇なり、斯くして良好の成績を擧るに於ては、各道改善の模範とすべし、地方の弊政に於て除却せらるゝに於て、韓國統治の意義を明にすることを得べし、之れ統監政治の急務にあらずや。

選擧法違反數

▲内務省の調査によれば今回の總選擧に關すも選擧法違反は今日迄に發覺せられたる者金品の贈與三百二十九件人員二千百二十七名にして暴行脅迫七件捨名投票及代理投票四拾五件七十一名なり（二十九日發）

統監の觀察使引見

伊藤統監は明一日（月曜日）午前十一時より各觀察使、漢城府尹を官邸に引見し各大臣次官列席の上一場の訓示演說をなし且つ觀察使、漢城府尹の地方行政組織改善に關する意見を聽取する筈なり

觀察使會議（第六日）

昨日は午前十時半開會出席者前日に同じく伊藤統監は明一日（月曜日）午前十一時より各觀察使、漢城府尹を官邸に引見し各大臣次官列席の上一場の訓示演說をなし且つ觀察使、漢城府尹の地方行政組織改善に關する意見を聽取する筈なり

米國政府と大博

▲米國政府は日本大博覽會に就き各州の贊同を覓め居れり（卅日東京經由）

北京電報

南清革命黨と佛國

▲目下滯京中の觀察使にして暴徒と或者との氣脉を通ずる中介を爲すものありとの風說を耳に致し候併し余輩は眞逆にと考へ申候只彼等が漢城今日に於ける韓會日卑の實狀を目擊し仕地に歸りて韓會日卑主義の宣傳者とならんことを恐るゝものに御座候

東京電報

東洋協會招待會

東洋協會にては去る廿七日目下東上中の曾禰副統監、大島關東都督、大島海灣警視總長等を三井集會所に招待して晩餐會を開きたり來會者は桂會頭、小松原幹事長を始め岡部子爵、田健次郎、柴田家門、大岡育造、加藤政之助の諸氏其他會員百五十餘名にして席定まるや桂會頭起て開會の挨拶をなし曾禰副統監の渡韓後における功績を擧げ東洋協會の調査研究によりて政府に建議したる拓殖會社は今や協會の手を離れたるも將來の施設については益々會禰副統監の助力を願はすもの多きを述べ又大島關東都督が戰後引續き租借地の經營に任じ着々其緒に就けるを賞揚して歡迎の辭となし次に曾禰副統監は來賓を代表して謝辭を述べ且韓國に關して一言希望するところありとて曰く余は既任以來邦人の韓國における事業の成否について調査したるに邦人の經營は動もすれば一度着手して中途挫折すれば直に拋棄して顧みざるもの多くためにに韓國における邦人の事業未だ成らざるを發見したり余は之れより後に歸らざる決心を以て韓國の事に從はんとす諸君も宜しく一旦韓國に手を下さば直ちに後に歸らざるの決心を以てせんことを望む云々夫より大島關東都督の談あり八時散會せり

豫備金支出裁可

廿九日左の通り裁可ありたる

金二十八萬五千圓
警備電話設備費支出の件
金一千百八十四圓二十七錢
法都仏寺設備費増額支出の件
金一千八百九十圓
軍事教官慰勞金支出の件
金二千七百六十二圓四十七錢
臨時軍用及鐵道用地調査會費支出の件

選擧人名簿調製

前號所報の如く仁川商業會議所にては昨日漸く選擧人名簿の作製を了りたれば明一日より向ふ三日間一般の縱覽を許すべしと而して該帳簿に依れば本年の選擧權所有者は總數六百廿名内一級二十九名二級八十名三級五百十七名なるが被選擧權所有者は右六百廿名より被選擧權を有せざる者五十八名を控除したるもの即ち五百六十八名にして今これを昨年の比較するときは實に左の如き減少を見るなり

選擧權所有者

	四十一年	四十年	減
一級	二九	三五	六
二級	八〇	八七	七
三級	五一七	五九二	七五
總數	六二六	七一四	八八

被選擧權所有者

	五五八	六四六	七八

教育倶樂部

第六回教育倶樂部は廿九日午後八時より日本人商業會議所樓上に於て開會せり會衆九十餘名大僧都岩井智海師の佛教の本旨に付講演あり終つて京城樂友會の淺井氏のウアイオリン、ハーモニカ、山脇氏の獨唱中川商橋二氏の仕舞稻本坂田二氏の尺八等あり次に名譽會員俵次官の韓人教育に就き講演あり續いて京城四絃會の河野、森、三島井上四氏の謠曲琵琶あり餘興として三遊亭千朝の落語及講談ありて非常の盛會なり

對星樓茶話

▲韓國政客來り、談間島問題に及ぶ曰く北間島は清國の領土也、日本浸りに兵を駐屯して管理するあり、開く清國は間島を世界に開放し各國均霑の地と爲さば日本獨り其權力を用ゆるを得ず、余曰く已に清の領土と稱する極めて不正當なり、今や韓の外交は日本の掌中に在り、日本帝國は清國國境の保護を爲しつゝあり、足下の外交論は間島を藉りて當世流行の排日論を陳述するなり韓客意に辭無くして去る。

▲韓國風說又起る曰く副統監韓せば李完用内閣更迭すべしと、是れ反響を求むるの風說なり。

▲天下は廻り持ちなり、韓人の天下は廻り持ちなり。

▲兩班大官の朱衣横頭に對する復讐時代は裁判制度の進歩によりて滿ん思らんとす、是れ韓國の社會問題なり。

▲暴徒鎭壓を如何に程度に成功すべきや否やの問題を解決する一方法は、如何なる程度まで鎭壓すべきかを定むるに在り是れ統監の責任なり

▲李總理大臣列席し任大臣表長席に本内次官副書長席に就き諮問事項第六「暴徒及び宣諭委員の聽聞等果第七暴徒歸順に關して觀察使の採りたる措置及び其効果如何」の二項に就き審議し午後四時散會せり本日夫々信念を以て立たる者の由に御座候悲かな我伊藤公には信念の跡見ゆ不申候筆に一身の榮辱と念ことせられ候爲其行ふ所砂上の機關に了り申候對韓問題の決せざるは全く公が信念を欠ける爲に有之候

▲臺灣に於ける後藤式歸順式は士民を閉息せしむる上に於て奏効致候而れども半島に於ける伊藤式歸順票は目下我討伐隊の行動を妨げつゝありとの事に御座候其理由として傳へらるゝところによれば暴徒は歸順票を携へ良民に化けて白晝公然我討伐隊の行動を偵察するが故なりとの事に御座候

▲皇城青年會の總務チエレット氏は歸米被致候而して萬國基督教青年會同盟幹事なる在東京米大使館付譯官ミユラー氏來京相成候思ふに皇城青年會が上海を離れて東京に屬するも遠からず と被存候

▲目下滯京中の觀察使にして暴徒と或者との氣脉を通ずる中介を爲すものありとの風說を耳に致し候併し余輩は眞逆にと考へ申候只彼等が漢城今日に於ける韓會日卑の實狀を目擊し仕地に歸りて韓會日卑主義の宣傳者とならんことを恐るゝものに御座候

徵稅と警察

徵稅事務を度支部所管の下に稅務署をして徵稅警察事務を警視廳及び内部警務局の直接管轄となせる現今の地方行政組織は韓國の現狀に適せず國民の誤解を生せしむる原因にして其効果擧らざるを以て徵稅警察の權を觀察使及び郡守に與ふべしとは國民一般の希望にして屢の各道書記官會議及び今回の觀察使會議に於て各書記官の觀察使及び漢城府尹は此の問題に關し熱心に現制度改正を唱へ居る由にて明後一日の統監邸會議に於ても彼等は此の希望を演述するなるべしと云ふ統監が果して此の意見を採用するや否やは疑問なるも蓋し今回の會議に於ける大問題なり

東洋協會招待會

東洋協會にては去る廿七日目下東上中の曾禰副統監、大島關東都督、大島海灣警視總長等を三井集會所に招待して晩餐會を開きたり來會者は桂會頭、小松原幹事長を始め岡部子爵、田健次郎、柴田家門、大岡育造、加藤政之助の諸氏其他會員百五十餘名にして席定まるや桂會頭起て開會の挨拶をなし曾禰副統監の渡韓後における功績を擧げ東洋協會の調査研究によりて政府に建議したる拓殖會社は今や協會の手を離れたるも將來の施設については益々會禰副統監の助力を願はすもの多きを述べ又大島關東都督が戰後引續き租借地の經營に任じ着々其緒に就けるを賞揚して歡迎の辭となし次に曾禰副統監は來賓を代表して謝辭を述べ且韓國に關して一言希望するところありとて曰く余は既任以來邦人の韓國における事業の成否について調査したるに邦人の經營は動もすれば一度着手して中途挫折すれば直に拋棄して顧みざるもの多くためにに韓國における邦人の事業未だ成らざるを發見したり余は之れより後に歸らざる決心を以て韓國の事に從はんとす諸君も宜しく一旦韓國に手を下さば直ちに後に歸らざるの決心を以てせんことを望む云々夫より大島關東都督の談あり八時散會せり

產物は如何にして輸出さる乎（三）

小豆

一原產地より仁川港までの運賃
イ、海路韓船にて運搬するとき　三十錢
ロ、鐵路に依るとき　六十錢乃至八十錢

にしてロの運の遠近に依りて相異なること勿論なれど仁川港へ集散する大豆にして陸路を採るものは太田金川物等を主とす金川よりするときは六十錢太田よりするときは八十錢なり

二當港より外國仕向港までの諸掛り
（甲）韓人の手より外國商人の手に渡る迄の分
イ、陸揚費　七錢
ロ、移し費　五錢
（乙）外國商人の手より船積までの分
イ、斗量場使用料　三錢
ロ、輸出組合積立金　十錢
ハ、繩吳代　三十二錢
ニ、荷造費　七錢五厘
ホ、輸出稅　從價五分
ヘ、倉庫費　從價五分

にして是等の全部は外國商人に於て負擔し時に依りてはイロの一部を韓人に於て仕辦すること

（丙）船積後外國仕向港までの分
イ、運賃（大阪神戸門司長崎芝罘）　四十五錢
ロ、保險料（百圓に付き）　二十五錢
（丁）船積後外國仕向港までの分
イ、運賃（大阪神戸門司長崎芝罘）　四十五錢
ロ、保險料（百圓に付き）　二十五錢

東京ならば七十三錢なり

選擧人名簿調製

前號所報の如く仁川商業會議所にては昨日漸く選擧人名簿の作製を了りたれば明一日より向ふ三日間一般の縱覽を許すべしと而して該帳簿に依れば本年の選擧權所有者は總數六百廿名内一級二十九名二級八十名三級五百十七名なるが被選擧權所有者は右六百廿名より被選擧權を有せざる者五十八名を控除したるもの即ち五百六十八名にして今これを昨年の比較するときは實に左の如き減少を見るなり

選擧權所有者

	四十一年	四十年	減
一級	二九	三五	六
二級	八〇	八七	七
三級	五一七	五九二	七五
總數	六二六	七一四	八八

被選擧權所有者

	五五八	六四六	七八

教育倶樂部

第六回教育倶樂部は廿九日午後八時より日本人商業會議所樓上に於て開會せり會衆九十餘名大僧都岩井智海師の佛教の本旨に付講演あり終つて京城樂友會の淺井氏のウアイオリン、ハーモニカ、山脇氏の獨唱中川商橋二氏の仕舞稻本坂田二氏の尺八等あり次に名譽會員俵次官の韓人教育に就き講演あり續いて京城四絃會の河野、森、三島井上四氏の謠曲琵琶あり餘興として三遊亭千朝の落語及講談ありて非常の盛會なり

在外新聞發賣禁止

内部大臣は二十九日附にて米領布哇在留朴一三發行の合成新報十八號、北米桑港在留鄭在煥發行の共立新報八十號は何れも治安を妨害するものと認め發頒布を禁止したり

▲愛國生命保險會社　同社にては從來當地の業務を代理店に扱はしめつゝありしが業務膨脹の爲今回新たに出張所を本町四丁目に設置し主任を同社營事淸水銀觀氏に定めたる由なり

▲大内代議士　木浦居留民の一人にして鎭岡縣選出代議士大内暢三氏は昨日來京せられ原金旅館に滯在中なり

▲鈴木才太郎氏　陸軍技師鈴木才太郎氏は今回韓國駐劄軍經理部付を命ぜられたり

▲富田仁川民長上京　富田仁川民長は或る重要事件を帶びて昨日入京統監府其他を歷訪せり

▲西部署長の後任　元公州警務署長たりし警視鈴木重民氏は當畝署長轉任の後任として西部署長に任ぜられたり因に氏は警察事務に關して極めて熟達し夙に敏腕の聞ゑ高かりし人なりと

▲阪井氏辭任　京城開業醫阪井義明氏は今般歸國に付民團議員を辭任せり

▲辭令　二十九日附

從六位　永沼直方
任統監府法務院評定官叙高等官五等理事
鑑副理事官
判事正七位　高木安太郎
任理事廳理事官叙高等官六等

▲韓官任命　廿九日左の通り

任貨幣整理局事務官叙奏任官三等　矢鍋永三郎
任貨幣整理局事務官叙奏任官三等　深尾道恕
任度支部平務官叙奏任官三等　市川豐吉
任關稅局鑑定官叙奏任官三等

公人私人

△宇一川一正（陸軍中將男爵）　二十九日大邱より來り巴城館へ投宿
△眞鍋善三郎（陸軍歩兵大尉）　同上
△井上幸藏（鹽戸鑛山技師）　不知火旅館へ投宿
△武智正風（愛媛縣辨護士）　三日月旅館へ投宿

●平鎭鐵道敷地收用未了　平壤鎭南浦間に敷設すべき鐵道敷地の收用未了の所少からざるを以て内部大臣は元の各坊面内にある土地家屋の賣買、交換、讓與、賃與、典當など該坊面内に於て家屋又は墓を新建を禁止すべき旨告示を發したり

平壤郡　西江西部　古南坊　仍次邑坊、沙眞坊、鶴林坊
龍山坊　金川谷面
元堂面
龍岡郡
三和郡

●產物は如何にして輸出さる乎（三）

小豆

一原產地より仁川港までの運賃
イ、海路韓船にて運搬するとき　三十錢
ロ、鐵路に依るとき　六十錢乃至八十錢

にしてロの運の遠近に依りて相異なること勿論なれど仁川港へ集散する大豆にして陸路を採るものは太田金川物等を主とす金川よりするときは六十錢太田よりするときは八十錢なり

二當港より外國仕向港までの諸掛り
（甲）韓人の手より外國商人の手に渡る迄の分
イ、陸揚費　七錢
ロ、移し費　五錢
（乙）外國商人の手より船積までの分
イ、斗量場使用料　三錢
ロ、輸出組合積立金　十錢
ハ、繩吳代　三十二錢
ニ、荷造費　七錢五厘
ホ、輸出稅　從價五分
ヘ、倉庫費　從價五分

にして是等の全部は外國商人に於て負擔し時に依りてはイロの一部を韓人に於て仕辦すること

（丙）船積後外國仕向港までの分
イ、運賃（大阪神戸門司長崎芝罘）　四十五錢
ロ、保險料（百圓に付き）　二十五錢
（丁）船積後外國仕向港までの分
イ、運賃（大阪神戸門司長崎芝罘）　四十五錢
ロ、保險料（百圓に付き）　二十五錢

東京ならば七十三錢なり

●選擧人名簿調製　前號所報の如く仁川商業會議所にては昨日漸く選擧人名簿の作製を了りたれば明一日より向ふ三日間一般の縱覽を許すべしと而して該帳簿に依れば本年の選擧權所有者は總數六百廿名内一級二十九名二級八十名三級五百十七名なるが被選擧權所有者は右六百廿名より被選擧權を有せざる者五十八名を控除したるもの即ち五百六十八名にして今これを昨年の比較するときは實に左の如き減少を見るなり

選擧權所有者

	四十一年	四十年	減
一級	二九	三五	六
二級	八〇	八七	七
三級	五一七	五九二	七五
總數	六二六	七一四	八八

被選擧權所有者

	五五八	六四六	七八

●教育倶樂部　第六回教育倶樂部は廿九日午後八時より日本人商業會議所樓上に於て開會せり會衆九十餘名大僧都岩井智海師の佛教の本旨に付講演あり終つて京城樂友會の淺井氏のウアイオリン、ハーモニカ、山脇氏の獨唱中川商橋二氏の仕舞稻本坂田二氏の尺八等あり次に名譽會員俵次官の韓人教育に就き講演あり續いて京城四絃會の河野、森、三島井上四氏の謠曲琵琶あり餘興として三遊亭千朝の落語及講談ありて非常の盛會なり

●在外新聞發賣禁止　内部大臣は二十九日附にて米領布哇在留朴一三發行の合成新報十八號、北米桑港在留鄭在煥發行の共立新報八十號は何れも治安を妨害するものと認め發頒布を禁止したり

▲愛國生命保險會社　同社にては從來當地の業務を代理店に扱はしめつゝありしが業務膨脹の爲今回新たに出張所を本町四丁目に設置し主任を同社營事淸水銀觀氏に定めたる由なり

▲大内代議士　木浦居留民の一人にして鎭岡縣選出代議士大内暢三氏は昨日來京せられ原金旅館に滯在中なり

▲鈴木才太郎氏　陸軍技師鈴木才太郎氏は今回韓國駐劄軍經理部付を命ぜられたり

▲富田仁川民長上京　富田仁川民長は或る重要事件を帶びて昨日入京統監府其他を歷訪せり

●西部署長の後任　元公州警務署長たりし警視鈴木重民氏は當畝署長轉任の後任として西部署長に任ぜられたり因に氏は警察事務に關して極めて熟達し夙に敏腕の聞ゑ高かりし人なりと

▲阪井氏辭任　京城開業醫阪井義明氏は今般歸國に付民團議員を辭任せり

▲辭令　二十九日附

從六位　永沼直方
任統監府法務院評定官叙高等官五等理事
鑑副理事官
判事正七位　高木安太郎
任理事廳理事官叙高等官六等

●韓官任命　廿九日左の通り

任貨幣整理局事務官叙奏任官三等　矢鍋永三郎
任貨幣整理局事務官叙奏任官三等　深尾道恕
任度支部平務官叙奏任官三等　市川豐吉
任關稅局鑑定官叙奏任官三等

公人私人

△宇一川一正（陸軍中將男爵）　二十九日大邱より來り巴城館へ投宿
△眞鍋善三郎（陸軍歩兵大尉）　同上
△井上幸藏（鹽戸鑛山技師）　不知火旅館へ投宿
△武智正風（愛媛縣辨護士）　三日月旅館へ投宿

●仁川女學校開校式　仁川高等女學校開校式は來る六月中旬頃擧行する豫定なりと云ふ

●近事片々

▲統監　宋農相の辭職を聽許する能はざる事情あり爲に慰諭留任せしむるとは眞なる乎

▲亦曰　宋農相の辭意は統監に對する威赫なりとの風說あり或は然らむと云ふ者あり

▲伊公　と宋君何等の關係あるか片々の觀知する所に非ず烟の揚る所火有りと云ふ

▲情實　は排除すべし情實の蹟る所必ず弊害あり公の明智此事無らむ有れば斷然排せよ

▲女子　興學會を宗親府に開く各大臣臨場す趙法相のみ左右夫人を帶同す一際目立つ

▲趙法　相何處に行くにも光岡夫人を伴ふ双方榮衆の如く馬車にて乘廻す寧ろ滑稽也

▲十年　以前阿久澤某米國より歸り麴町に邸を搆へ夫妻毎日二頭馬車にて乘廻たりき

▲自分　等のみ光榮あるが如く思ひ世間は嘲笑冷罵す趙君の馬車乘廻し亦同一轍失笑

▲幾湖　學會總會に於て學務局長尹氏と內閣書記官魚氏と議論衝突互に降らざりしと

▲學務　の尹致昊は私立學校の弊を說き內閣の魚鎔善は官學の弊を說て衝突と噴飯

▲大韓　每日申報社々運漸次衰退し維持困難なりと報ずる者有り近傍の命穴如何せし

▲林樓　助の淸國驕端なく露ケ關物議の種となる由來林は憎まれ者其辭案外の戰骨也

▲韓國　で嫌れ淸國で厭はれ今度亦伊太利では如何華美の露國歡れる事六ケ敷からむ

▲伊藤　公曾彌子を通て西園寺へ無賠に辭職の時機なるを諏せりと眞ならば伊公豪し

▲一說　には今辭職せるは非立憲也と伊公西園寺に注告せりと云ふては目先が見へぬ

▲風流　宰相陶庵侯文士を瓢屋に招て雨聲會を開く餘旋者例に依り竹越と横井の兩人

▲文士　は鷗外漁柿獨步宙外綠花小波桂月等外數名也宙外の追分節は最も振ひたりと

▲藝妓　は新橋の粹を集む此中侯の寵妓に鯉無論在料理は常盤にして最も粹の會合也

▲故治　の手腕は兎に角平民的に斯る讀酒の會合を爲すは獨り此侯のみ氣品俗を拔く

▲米國　議員ホボソンなる者日本に米國の太平洋主權を認識せしめざる可らずと力説

▲主權　を認むる迄每年四艘の戰闘艦を造て數の上に於て好戰國民を屏息さすべしと

▲洋鬼　には隨分突飛の氣紛れ者あり恰も怖れる吠る犬の如き態度也只抱腹絕倒のみ

▲蕾に　挑戰的態度を示しながら日本を好戰的國民と評す廣斗付の儘直に返上致し候

▲國が　廣い丈け馬鹿も多い併し苟も議員たる者の言動と思はれず言論の自由も極也

▲八日目水交社餘興にて同司院は休場せり蓋し水交社にても雨天にて流れたり

▲統監　宋農相の辭職を聽許する能はざる事情あり爲に慰諭留任せしむるとは眞なる乎

▲亦曰　宋農相の辭意は統監に對する威赫なりとの風說あり或は然らむと云ふ者あり

▲伊公　と宋君何等の關係あるか片々の觀知する所に非ず烟の揚る所火有りと云ふ

▲情實　は排除すべし情實の蹟る所必ず弊害あり公の明智此事無らむ有れば斷然排せよ

▲女子　興學會を宗親府に開く各大臣臨場す趙法相のみ左右夫人を帶同す一際目立つ

▲趙法　相何處に行くにも光岡夫人を伴ふ双方榮衆の如く馬車にて乘廻す寧ろ滑稽也

▲十年　以前阿久澤某米國より歸り麴町に邸を搆へ夫妻毎日二頭馬車にて乘廻たりき

▲自分　等のみ光榮あるが如く思ひ世間は嘲笑冷罵す趙君の馬車乘廻し亦同一轍失笑

▲幾湖　學會總會に於て學務局長尹氏と內閣書記官魚氏と議論衝突互に降らざりしと

▲學務　の尹致昊は私立學校の弊を說き內閣の魚鎔善は官學の弊を說て衝突と噴飯

▲大韓　每日申報社々運漸次衰退し維持困難なりと報ずる者有り近傍の命穴如何せし

▲林樓　助の淸國驕端なく露ケ關物議の種となる由來林は憎まれ者其辭案外の戰骨也

▲韓國　で嫌れ淸國で厭はれ今度亦伊太利では如何華美の露國歡れる事六ケ敷からむ

▲伊藤　公曾彌子を通て西園寺へ無賠に辭職の時機なるを諏せりと眞ならば伊公豪し

▲一說　には今辭職せるは非立憲也と伊公西園寺に注告せりと云ふては目先が見へぬ

▲風流　宰相陶庵侯文士を瓢屋に招て雨聲會を開く餘旋者例に依り竹越と横井の兩人

▲文士　は鷗外漁柿獨步宙外綠花小波桂月等外數名也宙外の追分節は最も振ひたりと

▲藝妓　は新橋の粹を集む此中侯の寵妓に鯉無論在料理は常盤にして最も粹の會合也

▲故治　の手腕は兎に角平民的に斯る讀酒の會合を爲すは獨り此侯のみ氣品俗を拔く

▲米國　議員ホボソンなる者日本に米國の太平洋主權を認識せしめざる可らずと力説

▲主權　を認むる迄每年四艘の戰闘艦を造て數の上に於て好戰國民を屏息さすべしと

▲洋鬼　には隨分突飛の氣紛れ者あり恰も怖れる吠る犬の如き態度也只抱腹絕倒のみ

▲蕾に　挑戰的態度を示しながら日本を好戰的國民と評す廣斗付の儘直に返上致し候

▲國が　廣い丈け馬鹿も多い併し苟も議員たる者の言動と思はれず言論の自由も極也

▲八日目水交社餘興にて同司院は休場せり蓋し水交社にても雨天にて流れたり

●土方の確執

敵は龍山味方は京城雲集する者五十餘名

一昨日の午后五時頃南大門外兵隊屋敷の附近に銃器を携帶する者三十餘名集合し山の手に登るを見たりといふ者あり南部警察署にては此の警報に接するや直ちに巡査數名を繰り出したり

又七時頃南廟附近に兇器を携帶する者數十名集合し肉ほ殺々四方より參集すとの報を得て西部警察署は巡査數名を繰り出せり又これと前後して龍山の兵營附近に日人五十名幹集合し不穏の狀況ありとの報ありて龍山警察分署は數名の巡査を急派したり市中にはまた多數の暴徒既に南大門外にまで寄せ來れりなど種々の取沙汰ありて氣早の連中は昨年八月の事變に鑑み諸道具の片付を爲す者さへありて未だ其眞相は詳らかならざるも若説は益々誇大に傳はりて市民は一時戦々兢々たりしが漸くにして事實は判明せり

其の事實といふは二三日前より土木受負の團子金分配方に就て龍山の土木受負業上田乙吉と京城の土木受負業田中竹二郎との間に悶着を生じ遂に田中は子分を集めて上田を襲撃せんと企てたり上田方にてはまた早くも斯くと傳へ聞き仲川の岸本某城の床梅事曾根田梅吉等これに加勢して逆襲せんと謀り檄を飛ばして味方を招きつゝ忽ちにして驅せ集まる者五十餘名と注せられあはや京龍間は修羅の巷となりて屍山血河の惨事を演出せんとするの一刹那西部警察署にてはこれを未發に防止せんとて田中方の重なる子分を見當り次第に引致檢束したるより勢ひ込んだる田中方も當の敵を失ふと共に警察の警戒厳重なるを以て雲集せし人々も何時となく四散し幸に一人の怪我人も出さずして事なきを得たり

●上田重吉は誤り

植田重左衛門

仁川放火犯にて其筋に連行されたる上田重吉は其後厳重なる取調を受けたるが没れも自分の姓名は上田重吉と稱する旨を白状せの如く書に此れを發表したるも誤りにて婦人の部里なりしも一昨日仁川鎮南浦にて照會取調べたる所なりしと同人は重五郎なる旨判明したりと同人は刑を受けたる如く自白するも之れ又取調の結果窃盗罪にて重禁錮二ヶ月に處せられたる事も確のたりと而して同人は一昨日仁川理事廳にて厳密の取調を受けたるが警察の手に逮捕されたる當時は神經非常に昂奮し居りしも目下は頗る平穏にて全く狂人等にはあらざるべしとなり

●貨物鑑定價格市價

昨日午後一時十分南大門通二丁目の西裏に出火ありとの警報に接し急ぎ現場に駆けつけ見ると有繋に廣き南大門通りも例のヨボが群をなして其の數萬を以て數ふべく往來も出來ぬほどの混雜にて相りは市街に蟻集き左なきだにどんよりと曇れる空一段の憂味を帶び巡査は其の間を制止しつゝ右往左往し其の火元の何れなるかを容易に知る能はざりしが白書のことして忽ちに消し止め其の火元は南松峴五十五統十戶沈享澤の炊事場にして僅かに之れを半焼したるのみにて損害額は約三十圓位ならんと

●盗難の自轉車發見

南山町二丁目の土巻商土見儀平が客月十月廿旭町三丁目に居住せし際代價百四十圓の自轉車一臺を盗難に罹りしが去廿九日同店の雇人草野文次郎が南署青寧橋后洞六十一統十四戶米商崔昌潤の店頭を通行の際昌潤の弟穏成(二)が稽古乘りを爲せるを何心なく見てありしに其の自轉車が見覺ありて紛れもなき盗品なるより直ちに南部警察署へ訴へ出で警察署に於て昌潤を呼び出し取調べたる處なるに客年十月南署田村太吉といへる者より十五圓の賃に取り其の後質受に來らざるより流質品として自用し居れる旨を答へ所品たることを判明せしを以て被害者に渡附したりと

●二百圓の持逃げ

龍山廻檢通り賀屋大橋支店の雇人左倉逸馬(三)は二十九日午前十時京城本町八丁目の同本店へ金二百圓を受取りに往き其の二百圓を受取つてドロンとも何とも言はず消へ失せたり

●北韓の牛疫

五月五六日頃より平安北義州郡林の北方十里北鎮西北約二里雲山郡司發洞湯地鉢於自里月隣の裏里洞の五ヶ村に牽似牛疫發生せしも當時一人として牛疫なるを知れるものなかりしが一韓人の言吉は其後厳重なる取調を受けたるが没れ自分の姓名は上田重吉と稱する旨を白状せの如く書に此れを發表したるも誤りにて婦人の部里なりしも一昨日仁川鎮南浦にて照會取調べたる所なりと同人は重五郎なる旨判明したりと同人は刑を受けたる如く自白するも之れ又取調の結果窃盗罪にて重禁錮二ヶ月に處せられたる事も確のたりと而して同人は一昨日仁川理事廳にて厳密の取調を受けたるが警察の手に逮捕されたる當時は神經非常に昂奮し居りしも目下は頗る平穏にて全く狂人等にはあらざるべしとなり

●本日の精神界

▲メンジスト教會 廻月曜二丁目名古屋城日本メンジスト教會にては本日朝夕禮拜及び傳道說教あり來聽者を歓迎するといふ尚ほ演題は左の如し

午前十時 「メリジョンスの傳」 木原牧師

午後八時 「食人島ニューヘブライズの傳道」 木原牧師

●京城基督教會 日の出町京城基督教會にては本日午前十時渡邊大審院長の講演あり

午後七時半より傳道說教あり

●琴曲符教授の案出 南山町三丁目伊藤靜代子は今回符を以て琴曲を練習する新法を案出し連日連夜自宅に於て速成教授をなす由なるが其符は最も簡便なるものにて人にても覺え易く普通稽古法よりも數十倍遠かに練達し得る効ありと云ふ尚ほ同女は彌智者の爲め日符稽古書をも出版する筈

●ビヤホール開業 明治町二丁目本町より入る左側二軒目に今回水茶屋を稱するビヤホール開業したるが諸事便に客の求めに應ずる由なれば時節柄嘗て厳ふなるべし

●飲料不適 本町九丁目兼光チャウの製造に係る柱皮水、蜜柑水は飲料不適にて其の筋より販賣を禁ぜられたり

●女郎吃らる 一昨二十九日午後一時頃新町南山樓の清次(二十)當盤の二人は遂に愛ましに嫉妬擅山上り草花を折り居たるを巡回の巡査に見付け出されれ眼玉頂戴

●新町だより

花は紅世は不景氣薩張り原助の三月が間を繰つる線香の煙りも流し何の小女郎が欠伸一つに哀れ表格子の素見客さへ吹き拂はれて幸氣も恪氣もあつたまの客か春は遥くの昔し雲井の彼方に逃げて行き久方振りに顔見する情夫の深切の夫れさへ青葉の夏は來ければ世間の人氣は此處新町には未だ微醉の臭嗅程も際會まず夕餉濟まして漫ろ歩きの客も時節柄と云へのまき口上に千人力の强みを見せて大盤は本町七八丁目にて足を止め五十錢一圓の儲買ひて爲の落つるに搗ひ無き連中ばかり絶かの人と舌充るる乾女の怨言より絶かの人と舌充るる乾女の怨言より楼主の御慰心は是れ一層エイと女將が力を入れて見て一戦勢の宜いは長廻管の雁首が吐月峰に辛らく響くのみ之れでは立て直す暇頃夫れすら解れて肩の根に寄りて集るは此の社會に大の禁物なる戦と諸方の仕拂ばかりすも既事ならぬ世は憂いもの辛らい行き方に前途に青葉時なり

待合 嬉野 席貸

京城永樂町一丁目 本町五丁目横入

盧重禮著、産集、

右相當ノ價格ニテ讓受タシ

漢城病院内工藤

御案内

東京最新流行夏衣

種々取揃へ陳列有之候間何卒御來觀

多少に不拘御買上被下候樣只管奉願上候

京城本町貳丁目

三越呉服店出張所

電話三五二番

公告

一金五白圓

但シビヤノ代トシテ

右ハ當地三井物産合名會社出張所舊支配人小田柿次郎氏ヨリ當民間立第二尋常高等小學校ヘ寄附相成候ニ付右公告ス

明治四十一年五月二十九日

京城居留民團民長 熊谷賴太郎

謹告

今般京城南山町二丁目十一番戶井上工業部(電話八番)構内に出張所を設け候間多少に不拘御用命奉願候

和洋船舶艦室内

裝飾品製造 小澤裝飾店

輸出入 本店 東京市芝區兼房町

工場同 三田四國町

出張所 旅順鎮遠町

大連山馬町

速成新法 琴曲符稽古開始

南山町三丁目九一六番戶

伊藤靜代

●蠟引最新式機械應用●

京城南山町三丁目本願寺下

●各官衙●購買組 御用達 阪洗濯店

今般最新式機械を購入致し且つ熟練の職人數名を更に聘し極力大勉强仕候間何卒倍舊の御愛顧御用命の程伏而奉希上候 敬白

●統監府 警視廳 檢査濟 氷卸大販賣

京城曙町(明治湯前)亀屋横町下る

森田商店

(取次電話九二六)

謝近火御見舞

南大門通

三好和三郎

電話一五三番

謝近火御見舞

昨近火の節は早速御見舞を辱ふし奉拜謝候得名伺洩もすくなからざるべくと存じ乍略儀紙上にて御禮申上候

南大門通

三浦商店

電話四九番

謝近火御見舞

南大門通三丁目(電話二二二)

丸天 福田又兵衛支店

月刊 朝鮮

京城本町二丁目 日韓書房

毎月一回 一日發行 定價壹錢 郵税一錢 一切前金

●脚氣病妙藥の親玉●

此藥王散は如何なる難症の脚氣病と雖も全快す

藥王散

京城本町七丁目

高橋三光堂

●天氣豫報(自三十日午後六時至卅一日午後六時)

韓國氣象概況(五月三十日午前六時)

概ね北又は東の風吹く南部は曇天其他は晴天なり

(四) (第三種郵便物認可) 明治四十一年五月廿一日 京城新聞 (自隔日) 第壹百五十七號

華族樣口說 (二)

西の宮れ樂の述懷

別座敷の六枚屏風

前にも申しました通り、大勢の姐さん達が寄つて集かつて妾を取圍き、チヤーた樂さん是非御前樣の答ふことを肯いて下さいと又妾達の顏も立てゝ下さいと五月蠅やうに口說きましたが私は只もう羞かしいのみで下俯向ひて默つて居りましたが頓てその中の年增の姐さんが私の前へ參りまして申しまするには「れ前さんに斯んなことを勸めましては私達の立ち場からはチト筋が違つて極りの惡い咄なのでが然し外ならぬ御前樣のこと什麼か無理な願ですが叶ゐて遣つて頂きたいのですが チ……れ樂さん返辭は什麼です」と、のつぴきならぬ談判マサカ厭ですとも斷られず、揚句の果に、ちや姐さん達の顏を立てゝといふことになつたのです、

樂ちやんが承知の上はサア御前彼方へと豫て用意をして置た別座敷へれ坐換へとなりましたので、己むなく妾は姐さん達に送られて行つて見ますると、ソコに廻した六枚屏風が直ぐと目につくのではありませんか私は急に身体が堅くなつて仕舞ひましたがもう斯うなつたら仕方がありません、ウジ〳〵しながらトウ〳〵其の六枚屏風の中に……御前と差しゐひに坐りました、其の時は只もう胸がドキ〳〵してまるで早鐘でも打つやう……スルト御前が大勢の姐さん達に「コラ〳〵其の方其は予が其處へ參る迄他出はならん」との仰せ、ソレが又大層大きな聲なのです、如何に何んでも常節の殿方なぞには其のやうな馬鹿々々しい事は申されました譯のものではありませんが併しソコが其の時分の華族樣イザ仕方がありません、唯屏風の外につき番をして居る姐さん達がよい面の皮です、彼れ是れする內に御前は妾の顏を覗き見て「ア、面白いの……しらく其の方は何と」ふと應揚に申されました、妾もさう何時迄も無言で詳りは居られません、片唾を呑んで居ると口を開いて「ハイ……アノ御前」とソレもやつとの思ひしまするとお前は「何時見ても別嬪だ」と申されましたから、私は此處ぞと一生懸命になり「アノ什麼か今日は此處なられ申し下さいませ、其の代り世間へ秘緊さ遊ばされに立てゝ御前のお顏はキツト立てるようにいたしますから」と、泣かない許りに申し上げますと、流石は應揚な殿樣樣「予の顏を立てるとあらば今日の所は是れでよろしい」と、未だき濟みになりましたから私はもう直ぐ逃げるような氣持ちで屏風の外に居つた姐さん達が「れ樂さんた陰で安心しました、何もソンなに急いで歸らなくとも可いではありませんかと今度は私を嬲り口調で……(つゞく)

各國時計並附屬品類

開業披露の爲め薄利多賣の先驅となり五月廿二日より向三十日間の通大割引

此度各上等時計及附屬品ども賣價より二割引

追て修理の樣も低廉を主とし入念御用御勤め可申上候

京城明治町一丁目 電話申込

金化堂時計舖

謹告

日本燒支那燒 煉瓦製造販賣

日本燒は有名なる平壤製にして日々の產出高二萬五千以上今回鐵道管理局と運賃低減の契約を致し如何程大口の御注文にても調達致べく値段も成行相場より安價に御契約可致候間多少に不拘御下命被下度願上候

京城旭町一丁目

平壤京谷煉瓦製造所代理店 田商店

能代杉板類及杉角

右今般能代より多數輸入致候間特別廉價販賣可仕候

多少に不拘御用命願上候

明治四十一年五月

京城旭町一丁目 小森商店材木部 電話七百四十四番

高等御下宿 諸官衙通學に最も便利の位置

京城旭町一丁目 河屋 電話一八番 山田儀作

御最寄

御願

芳喜代

十吉

松邸

榮駒子

和韓洋 御料理 並に仕出し 韓洋料亭

大和町軍司令部前 電話六三九番

故陸軍々醫總監從三位勳一等男爵醫學博士 松本順先生親傳秘方

專用

張貴本舖 香川縣高松市 龜井金光堂謹製

▲梅毒▲癩病▲リヨーマチ斯特効藥

定價十日分金五十錢十四日分九十五錢廿八日分一圓七十五錢五十六日分二圓出五錢

韓國發賣元

各山長平通金比羅前(電話六六二番)

日清館 龜井亮之藥局

▲特別勉强▼

京城明治町一丁目

素麵製造所 橋口商店

▲特別勉强▼

各科治療 入院隨意

軍人、新聞記者、職工、學生、諸君は藥價半減可仕候

無代施療券配布方民役所へ托し置き候間該券持參の方に限り無代治療に可應候

京城長谷川町二丁目

薬生病院

入院隨意

京城醫院

京城旭町一丁目 電話七四二番

各種血法 每日種痘

日韓病院

入院隨意

京城旭町二丁目 小川病院 電話六四三

內務省認可 武藤人參

入院隨意

鐵冷鑛泉

入浴 京城本町一丁目鐵冷鑛泉

日本官製煙草 ロンライフ

品質純良

石鹼元祖

IVORY DES GN PATD AUG.26.79

行商一手

輸入元 東京 藤原京城支店 電話九五九番

石鹼の撰擇は香色にあらず品質純良なるにあり

アイボリー石鹼は香料香色を省略せし純良の家庭向實用石鹼なり

賣捌所 京城永樂町二丁目 各藥店小間物店にあり

美術書畫 魂壁天井張

城壽町一丁目 桂萬吉

白井石材販賣部

京城永樂町二丁目

改姓廣告

拙者儀今般矢島と改姓仕候間此段謹告仕候

陣內政治事 矢島政治

日本大學卒業 日本法律學士 岩本英夫法律事務所

京城本町一丁目八十四番戶 電話六四二番

仁川港市場通 電話三二五

仁川港市場通 一百九十上番 電話五二七番

原金旅館

電話 京城南山町(電話一〇七番)

東京生花ば

京城壽町三丁目坂井病院隣

東京庵 (電話架設中)

日本醫庵 味噌醫油製造 乾物荒物鑛詰 銘茶食料雜貨

京城本町九丁目 漬物問屋 大上商店 (電話二五一番)

大阪滋養豆腐 豆腐本のめでんがく

右は一合三錢にて賣ダ配達仕候間御入用の御方ははがきにて御一報被下度候

右は二人前十三錢にて仕出し可仕候

京城旭町壹丁目 中瀨商店

木のめ田樂

日本郵船會社 東京 電話十番 瀨戸內海 山陽廣告 貨物及船客取扱店

仁川港市場通 郡回漕會 電話三九番

京城本町通 巴商店 電話三〇六番

釜山東萬丸 六月七日 後三時出

第一神戸行 釜山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 鎭路丸 五月 日 後三時出

大連、大沽、牛莊行 高砂丸 六月十八日 後一時出 山東丸 五月 日 前五時出

天津、大沽、牛莊行 酒田丸 五月 日 後一時出

第一南浦行 第一オヨー流

釜山出帆、元山、清津、浦鹽行 弘前丸 六月十日

御乘船ノ際ハ秩父丸ヨリ本船迄御送迎船ヲ申請送迎可仕候

注意 船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ